

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小石 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」に関連して問われていることについては、おおむね理解できている。一方で、「言葉の特徴や使い方」に関しては、基本的な漢字の読み書きを中心に定着が十分でなく、課題が見られる。
	よくできた問題	対話場面における発言の主旨や意図を見いだす問題は、よくできている。
	努力が必要な問題	条件に合った書き方で、自分の主張を字数制限内でまとめて書くことに課題が見られる。
算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算領域や図形領域の基礎・基本的な事項については、おおむね理解できている。一方で、文章問題の中から、示されている関係を的確に理解し、立式・説明することに関しては、課題がある。
	よくできた問題	基本的な公式を用いて計算したり、グラフや表から必要な情報を読み取ったりする問題は、よくできている。
	努力が必要な問題	百分率を用いて、数量の関係を正しく捉えて計算処理することに関して課題がある。
理科	全体的な傾向や特徴など	生命領域に関して問われていることについては、おおむね理解できている。一方で、粒子やエネルギー領域に関しては、条件を制御して実験する手順について誤答が多く、課題が見られる。
	よくできた問題	生命や地球領域において、観察記録を基に考察する問題に関しては、よくできている。
	努力が必要な問題	粒子やエネルギー領域において、実験の手順を説明したり、根拠ある理由を書いたりする問題に課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習中に話し合って問題解決する活動に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が高い。特に、学級活動に関しては、周りの意見をよく聞き、よさを生かしながら解決方法を探ることができる児童が多いことが明らかになった。日頃の学級活動に対して、意欲的に取り組んでいることが分かる。 ・自尊心について問う質問(将来の夢の有無、自分の長所など)に関しては、肯定的に回答をしている児童の割合は多い。日々継続的に行われる学級活動の取組を通して、互いの良さを認め合ったり、自分とは違う考えを分かり合おうとしたりする心情が育っていることが分かる。 ・家庭学習に取り組む時間は、全国の平均回答と比べると、少ない状態である。家庭学習の時間と質の確保に関して、下記に示す方策を講じ、家庭との連携を図るようにしていく必要がある。 ・ゲームやスマートフォンを扱う時間(一日当たり)が、全国の平均回答と比べると、多い状態である。家庭と連携しながら、使い方に関するルールの見直しを図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学習の感想や振り返りを、字数制限内でまとめて書くことができるように、学年の実態に応じた手立てを取りながら、各教科等で取り組む。
 ・基礎基本的な漢字の読み書きや、計算問題を中心に、小石タイムを活用しながら全校で継続的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・テレビの視聴やスマホの使用に関して、各家庭でのルールを再確認する場を設定する。各家庭にも啓発する。
 ・家庭学習の意義や方法などを、学級活動(3)で指導する。また、学校・学年通信を活用して各家庭に啓発する。特に、高学年に関しては、中学校区共通の自主学習ノート「KOYOノート」の積極的な活用を、より一層推進する。